

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和5年度 病害虫発生予察技術情報第 12 号を発表しましたので送付します。

令和5年度 病害虫発生予察技術情報第 12 号

カンシャコバナネナガカメムシ(ガイダー)の防除適期について

カンシャコバナネナガカメムシはサトウキビの葉鞘や梢頭部に潜み、集団で吸汁加害する。株出し栽培で被害が多く、多発すると 20%以上減収する事がある。1 茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場では防除適期を失しないよう注意する。

1 防除適期予想日

- (1) 沖縄本島中南部における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は 2.3 頭（前年 1.3 頭、平年 0.9 頭）と平年並であった。齢期は3月1日時点で 1.0 齢であった。
- (2) 宮古島における3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は 4.4 頭（前年 3.1 頭、平年 1.1 頭）と多発生であった。齢期は3月12日時点で 1.5 齢であった。
- (3) 石垣島における3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は 0.1 頭以下（前年 0.4 頭、平年 1.4 頭）と少発生であった。齢期は3月13日時点で 1.0 齢であった。

(4) 防除適期予想日(3月21日現在)

地 域	防除適期	2.5 齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月5日～4月19日	4月12日	4月21日	9日早い
南・北大東島	4月1日～4月15日	4月8日	4月17日	9日早い
宮古島及び周辺離島	3月31日～4月14日	4月7日	4月12日	5日早い
石垣島及び周辺離島	3月26日～4月9日	4月2日	4月6日	4日早い
与那国島	3月29日～4月12日	4月5日	4月9日	4日早い

* 2/1～3/20 は観測値、3/20～4/12 は1ヵ月予測値。4/13からは平年値を使用（沖縄気象台発表）。

2 生態

- (1) 集団で葉鞘や梢頭部に潜み吸汁加害する(図1)。
- (2) 年2～3回発生し、成虫ないし卵で越冬する。
- (3) 成虫には長翅型と短翅型(図2)がある。長翅型は高温・高密度で出現し、夏から秋にかけて移動分散を行う。
- (4) 前年の秋、冬に産み付けられた卵は3～4月にふ化し、第1世代目となる。
- (5) おおむね4～6月が第1世代、7～8月が第2世代、9～10月に第3世代が発生する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場(図1)は防除を行うことが望ましい。
- (2) 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。



図1 集団で吸汁加害する1齢幼虫



図2短翅型成虫と長翅型成虫

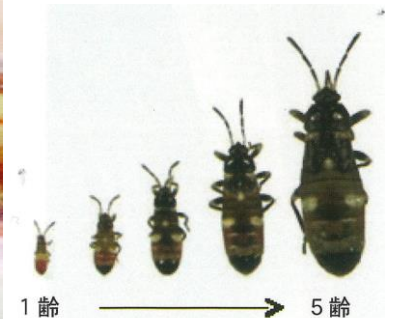


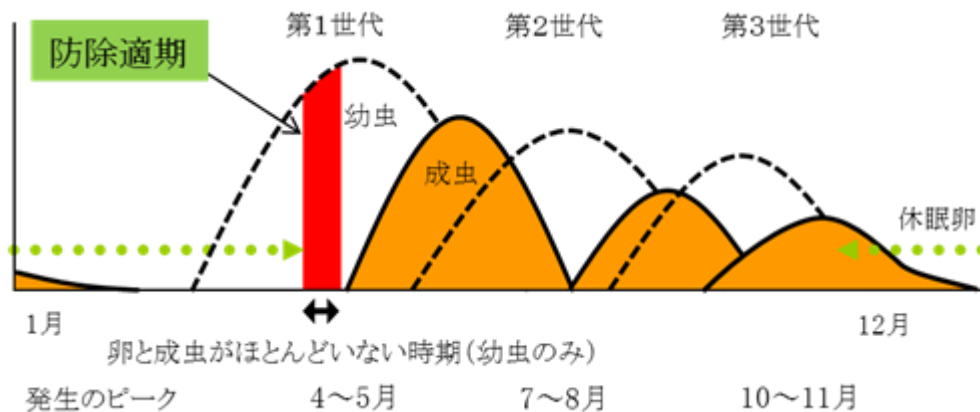
図3 幼虫
(1、2 齢幼虫が多い時期が防除適期)

【参考資料】

1. 防除適期とは

カンシャコバナナガカメムシの防除は、農薬の効果が低い卵や成虫が少ない時期が最適です。卵は2月下旬頃からふ化し始め、4月中旬から下旬にほとんどふ化が終わります。この数週間は成虫が少なく、さとうきびの草丈も低いいため農薬散布に適しています。

下の図の赤い部分が若齢幼虫(図3左側)が多く最も薬剤散布に適した時期です。これは卵がすべてふ化する時期を予測することで算出されます。2月1日を起点として、日平均気温が13℃を上回った温度(2月1日が16.4℃だった場合は3.4℃)を累積し、480℃を超えた日が防除に最適の日となります。その前後1週間が防除適期に含まれます。また、この予想日に発生する幼虫の齢が平均2.5になるため、予報資料では「2.5 齢期予想日」という表現になっています。



2. 要防除密度

4月中～下旬の防除適期に発生量を確認し、一茎当たり 20 頭以上のカンシャコバナナガカメムシが確認された場合は、農薬散布を行う。

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>